

資料 8-3\_(H27 通知)国立・国定公園内における地熱開発の取扱いについて及びその解説.pdf  
についてのメモ 2021年7月31日(土) 斎藤馨

1. P9,p10 そもそも、全国的な自然公園ゾーンと地熱貯留層および貯留層探査のための試験井分布についての主題図を作成し、以下の3区分くらいの区分別の集計面積とその主題図を基に検討すべきだとおもう。

(自然公園特保・1特・2特) n (貯留層・有望度区分など)

(自然公園3特・普通) n (貯留層・有望度区分など)

(自然公園区域外) n (貯留層・有望度区分など)

2. p15 現状は、この写真の撮影地点(視点)の視点場の杉高木による遮蔽効果であって、これは地熱発電所敷地内(視対象)およびその周辺(対象場)での対策ではないので、景観保全対策として混乱を招くだろう。

3. p17, 18(本館) なじみのある工作物におけるヒューマンスケールの扱いに気をつけるべき

屋根がついて2階建てのようであるが、タービン・クレーなどの大きな工作物が格納されているため、現実の2階建てよりも大きな構造物となる。それは巨人にとっての2階建てであって、周辺の樹木などとのバランスや、近づいてみると違和感を感じるのだから気をつける必要がある。大きな工作物を格納した大きな発電所建屋としたほうが良いと思う。

4. P18 冷却塔 これ自体は一つのセルを小さくしているが、敷地の高い位置にあるため、その工夫の効果が十分発揮されていない気がする。さらに本館が上記3.のようにスケールアウトしていて、冷却塔のセルが小さい分、より不釣り合いだと思う。

というふうに、一律に 山小屋風 とか 傾斜屋根 とか ではなく、周囲の地形／植生などの自然風景と、地熱発電所の関係性で検討すべきであり、そこに地元のステークホルダーなども混じって検討することが必要だと思う。

5. P19 視点と対象との、それらの周囲の地形／植生の関係性で見えたり見えなかったりなので、視点選定や景観資源を見るという視点の重要度などこの段階の検討前の検討が必要となる。